

学校生活における熱中症対策

1 マスクの着脱

(1) マスクを着ける指導をする場面

- ① 室内での運動を伴わない授業中
- ② 室内での運動を伴わない授業以外の教育活動中(学級活動・委員会・クラブ・児童会活動・学校行事等)
- ③ 暑さ指数(WBGT) 25°C未満の体育の授業(プールは別提案)
- ④ 室内での運動を伴わない休み時間中
- ⑤ 暑さ指数(WBGT) 25°C未満の状況で室外での休み時間中
- ⑥ S S活動中
- ⑦ 校外学習での室内での活動中
- ⑧ 集団登校中
- ⑨ 暑さ指数(WBGT) 25°C未満の状況での登下校中

(2) マスクを外す指導をする場面

- ① 暑さ指数(WBGT) 25°C以上の状況で室外での休み時間中(31°C以上で外遊び禁止)
 - ② 暑さ指数(WBGT) 25°C以上の状況での体育の授業中(31°C以上で体育中止)
 - ③ 暑さ指数(WBGT) 25°C以上の状況で下校をする時(31°C以上で別対応)
- ※6月中は登校時にマスクを着ける。7月に入ったら、登校時は毎日マスクを外す。

2 児童への水分補給の指導

(1) 水分補給を指導するタイミング

- ① 休み時間の前後
- ② 下校前
- ③ 体育の授業中は、必ず給水タイムを1回設定する。

(2) 水筒の中身の指導

- ① 学校では、水・お茶を推奨。中身の決定(氷の使用も含む)は家庭の判断に任せる。
- ② 塩分タブレット等の服用は、衛生管理や、アナフィラキシー回避の観点から許可しない。水筒の中身の工夫で対応させる。

3 教室の換気方法

(1) 感染症対策と熱中症対策を両立させる換気方法

- ① 通常は、備え付けの冷房とサーキュレーターを稼働させながら、窓を全開して換気を行う。3階では、必要に応じてスポットクーラーを使用する。
- ② 教室内の気温・湿度が上昇し、熱中症の危険がある場合には、校庭側・廊下側の天窓のみを全開にして、他の窓は閉める。

(2) 機器の有効活用

- ① サーキュレーターの常時使用
- ② スポットクーラーは3階普通教室で使用。
- ③ 定期的に教室の二酸化炭素濃度を測定する。

4 休み時間の校庭の使用

(1) 暑さ指数 (WBGT) と校庭使用判断の基準

暑さ指数 (WBGT)	熱中症予防指針	休み時間の校庭使用
31℃～	危険 運動は原則中止	校庭使用停止
28℃～31℃	嚴重警戒 激しい運動は中止	マスクを外して校庭使用
25℃～28℃	警戒 積極的に休憩	
21℃～25℃	注意 積極的に水分補給	マスクをして校庭使用
～21℃	ほぼ安全 適宜水分補給	

(2) マスクを外した場合の休み時間の過ごし方

別資料

5 熱中症対策のための環境整備と広報

(1) 施設・設備の有効活用

- ① 体育館送風機・スポットクーラー・サーキュレーター，ミストシャワーの積極的活用
- ② 朝の窓開放による換気
 - ・西館の窓・東館東側窓開放（教頭）
 - ・体育館窓開放（教頭）
- ③ 校庭へのテントの設置（週末には足を折りたたむ）

(2) 家庭への協力の呼びかけ

- ① 下校時の年中症対策への協力呼びかけ
- ② 暑さへの抵抗力を高める生活習慣の励行（早寝・早起き・朝ご飯等）

6 登下校の熱中症対策

(1) 学校からの指導

- ① 暑さ指数 (WBGT) 25℃以上の状況で，マスクを外し，話をしない。
- ② 荷物の軽量化を図る。
- ③ 十分な水分補給をさせる。
- ④ 必ず帽子をかぶらせる。
- ⑤ 傘を差して日差しを防ぎ，他の児童との距離を保つ。

(2) 各家庭で判断してもらうこと

- ① クールタオルや冷感タオル等の使用を考える。
- ② 水筒の中身を工夫する。